



八卦台

No. 9

平成30年1月1日
男鹿市立瀧西中学校

瀧西中・平成三十年の計

「一年の計は元旦にあり」の続きに寄せて

校長 森山 直人

明けましておめでとうございます。皆様方には、新たな希望と抱負をもって、新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「一年の計は元旦にあり」ということわざがあります。「新しい一年を迎えるに当たり、その一年になすべきことを、年の初めの元旦（元日の朝）にきちんと計画を立てることで、その一年が有意義な一年になる」という意味で用いられます。

新年に当たり、諸説あるこのことわざの由来の中から、中国の書物「月令広義」（げつりょうこうぎ）にまつわる説を紹介します。「月令広義」は、明の時代の学者、馮慶京（ひょうおうきょう）が中国の伝統的な年中行事や儀式、しきたりなどについて著したものです。その中に「四計」（生活を充実させるための四つの計画）について触れています。

【四計】

- ① 一日之計在**晨**（一日の計は晨（あした）にあり）
[意味] 一日の計画は朝にきちんと立てなさい。
（晨：朝のこと）
- ② 一年之計在**春**（一年の計は春にあり）
[意味] 一年の計画は元旦に立てなさい。
（春：中国歴の正月のこと）
- ③ 一生之計在**勤**（一生の計は勤（つとめ）にあり）
[意味] 一生は、まじめに働くことで決まります。
- ④ 一家之計在**身**（一家の計は身にあり）
[意味] 一家の将来は健康で過ごすことで決まります。

この①②を合わせて「一年の計は元旦にあり」の由来であるというのがその説です。そして、③④につながるということは、「一年の計は元旦にあり」には続きがあったということになります。

瀧西中ホームページのご案内

瀧西中のフレッシュな情報をお届けしています。HP内の学校ブログ「瀧中DAYS」は随時更新中です。学校報で紹介しきれない情報も発信していますので、是非ご覧ください。携帯・スマホでご覧になる場合は、右のQRコードをご利用ください。



③④の意味も含めて「四計」の意味を私なりに解釈してみると、「一年の目標や計画を元旦に立てましょう。そして、それを積み重ねた一生は、計画に基づいて懸命に取り組むかどうかで決まります。そして、あなたの周りの人の幸せは、あなたが心身ともに健康で過ごすことにかかっています。」と言えるのではないかと思います。

そこで、このことわざの意味を踏まえ、瀧西中としての平成三十年の計を立ててみたいと思います。

【瀧西中・平成三十年の計】

瀧中生一人一人に確かな学力を身に付ける指導を日々積み重ね、そして、健やかな心と体を育みます。また、それらを支えるべく、今年度大きく動き始めたコミュニティ・スクールとしての役割を果たし、地域の元氣と幸せの発信源・瀧西中を目指します。

今年度も、地に足をしっかりと付け、「瀧西中・平成三十年の計」を軸に、生徒一人一人の成長を保障する教育活動を、職員一同積み重ねてまいります。今後とも、瀧西中学校へのご支援をよろしくお願いいたします。

さて、3年生は、冬季休業中に私立高校の推薦入試が始まります。いよいよ本格的に受験に立ち向かうこととなります。これまで培ってきた学力、体力、精神力をもって、力強く、たくましく、自らの手で未来を拓くべく、それぞれの目標に挑み、合格を手にすることを願います。1、2年生は、来る春に向けて、学力、体力共に、しっかりとエネルギーを蓄える時期です。自分に厳しく、日々の努力を積み重ねていきましょう。瀧中生全員が益々飛躍する一年になることを期待しています。



八卦台NiceShot!

天気の良い冬の早朝、校舎側から駐輪場に目を向けると、太陽と真っ白な雪が作り出す切り絵のように繊細でドラマティックな景色を見ることができます。

